



【全ての人を愛され、救うために来られたイエス】

聖書本文:マタイの福音書1:20-21・ルカの福音書2:10-11

説教:鄭南哲主任牧師

(Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイスチャーチの信仰の家族のみなさん! メリークリスマス! クリスマスおめでとうございます! インマヌエルの主のイエスキリストの祝福と平安が皆様のご家庭、人生の上に豊かに注がれますように切にお祈り申し上げます! 我々のイエス様は2025年前にはメシアとして、救い主神の御子イエス・キリストが来られ、お生まれになられた日を意味します。

メリーは「喜んで」意味で、クリスマスの意味はクリス(キリスト)+マス(礼拝:拝する)、X-masのXもギリシャ語で「クリストス(Xristos:キリスト)」の意味であるので、この世に我々を救う為にお生まれになったイエスキリストを喜んで迎え入れ礼拝する日であることをその言葉の意味自体が知らせてくれています。

「御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。見なさい。私は、この民全体に与えられる、大きな喜びを告げ知らせます。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」「見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。(訳すと、神は私たちとともにおられる。という意味である。)その名をイエスとつけなさい。」「神は、実にそのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。(ヨハネ3:16)」するとクリスマスの真の意味は何ですか。愛です。

神様は御自分のひとり子をとおして神の極致の愛を表してくださった日なのです。イエスキリストは、すべての人の唯一の救い主であられることを聖書は証言して下さっています。「救い主」とは、自分の力ではどうしようもない危険な状況にさらされて者を死から助け出し救済者という意味です。この呼び名は、旧約時代には神を指す言葉でした(イザヤ43:11; 「わたし、このわたしが主であり、ほかに救い主はない」)。その呼び名がイエスにも使われることで、イエスが神であられることを示しています。神であられるイエスキリストは、ご自分の民を救うために、人間と同じようになられました(ピリピ2:6-8)。このように救いの場所には自分を低くする姿勢があります。真理の福音を伝えて生きる私たち(マルコ16:15)は、一人の救いのために自分を低くしなければなりません。

『①人の常識や理解を超えて預言の通りに成就し、来られた救い主イエス・キリスト』

神の御子、メシア救い主なるイエスキリストのご誕生は人の期待や常識や理解を超えて来られたのです!

旧約聖書の中多くの人物や預言者たちがメシアについて預言されました。特にイザヤ預言者はイエス様のお生まれの前B.C.759年にイエスキリストの降誕についてとても具体的に予言していました。処女がみごもって、男の子を産む。その子は全世界を治め、救うために苦難をせおっているのであることを予言しました。例え、イザヤ書7章14節と9章6-7節です。「14それゆえ、主は自ら、あなたがたに一つのしるしを与える。見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ」/9:6ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。

7その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に就いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これを支える。今よりとこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。」

イエスキリストがお生まれになる前の紀元前750年頃、ミカ預言者も、そのメシアがベツレヘムでお生まれになることまで具体的に預言(ミカ書5章2節「ベツレヘム・エフラテよ、あなたはユダの氏族の中で、あまりにも小さい。だが、あなたからわたしのためにイスラエルを治める者が出る。その出現は昔から、永遠の昔から定まっている。」)されました。

神の子は聖なる地であるエルサレムでもなく、権力の都市であるローマに来られませんでした。

文化の都市であるアテネでもありません。イエス様は予言の通りに成就させるためにユダの町の中で、もっとも小さい町であるベツレヘムに来られました。

そして、愛する信仰の家族のみなさん! メシアなるイエス様はお生まれになられた場所はどこでしたか。

何と臭い馬小屋の飼い葉おけでお生まれになられたのです。(ルカ2:7)

「男子の初子(ういご)を産んだ。それで、その子を布にくるんで飼い葉桶(かいばおけ)に寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。」

これはイエス様の生涯をよく表しています。栄光に満ちた天の御座の御國から汚れた世に来られましたが、派手な宮廷ではなく、金持の華麗なる邸宅を選び、誕生は飼い葉おけでした。イエス様の生涯は謙遜そのものでした。イエス様の生涯は卑しまれる貧しい人たち、罪人たち、孤児や未亡人、病人の友となって下さいました。イエス様は小さい町であるベツレヘムに来られました。

その方はみどりごとして来られました。もし、その方がつるぎを持って、力と武力で巨大な軍事を連れて来られたのであれば、だれもが彼に近づくことは出来たでしょうか。しかし、イエス様はあのエルサレムのお城でもなく、人間世界の宮殿でもありませんでした。ベツレヘムと言う小さい町の馬小屋で生まれました。これは確かに逆説ですね。金持でも、貧しいものでも、だれでもその方に訪ねられるように、一番低いところで、みどりごとして我らの救い主が来られたのです。

つまり、イエス様はご自分を世の中一番低くところに来られました。一番謙遜な姿を取り、へりくだつた者として、だれでも出会えるような姿で来られたのです。イエス様がこの地に来られたのは神様の愛と謙遜の最高の極致でした。

その主の御前で謙遜に自分を低くさせへりくだる者たちが、キリストと出会えます。そのようにへりくだり、神の救いを待ち望む者たちと主は今も共におられます。願わくは、キリストの御誕を迎える今週、インマヌエルの救い主イエスキリストがクリスチャンプレイスチャーチのみなさんと共におられ、イエスキリストのある神の豊かな愛と救いの恵みを豊かに注いで下さいますように主イエス・キリストの御名によって祝福します。アーメン！

今日のクリスチャンは、みことばが人間となられたということばに慣れてしまっています。神が私たちのうちに一人となられたという事実を、クリスマスシーズンにだけ思い起こす程度なら、もはや特別なものではなくなっていることかも知れません。C. S. ルイスは、キリストの受肉について「神話が事実となつたこと、神が人間となり、低くなられたこと」だと表現しました。人類歴史上、最高の瞬間であり、太陽系を瞬(また)く間に存在させた方が、時が満ちて、無力なみどりごになられたのです。G K チェスターントンという方は、キリストがベツレヘムでお生まれになった日の夜について「太陽と奉仕を創造された御手が、家畜の頭にも届かないほど小さくなつた」と描写しました。イエスキリストは、罪を除いて、人間が経験するすべてのことを経験されました。イエスが奇跡を行われたのは、自然の秩序に逆らうためではなく、自然の秩序を本来の状態に回復させるためでした。盲目の物が見えるようになり、足の萎えたものが歩けるようになることは、本来あるべき姿です。イエス・キリストは、この堕落した罪深い地に生きる人間の中で、唯一の完全な人間でした。ですから、受肉されたイエス様は、人間の本来あるべき姿、いつの日か完全なん人間として回復した時の姿を示しておられます。適当な恵みであれば、「あなたがいる方に半分ほど近づいてあげよう。あなたが本来の姿に戻れるように手伝ってあげよう」となるでしょうが、しかし、神は「豊かな」恵みにより、「わたしがあなたと一緒にになって、本来の姿に回復させてあげよう」と言われます。

神の救いの知らせは、野で羊の番をしていた名もない羊飼いたちに知らされました。「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました」という宣言です(11 節)。それは、すべての民に宣言されたものでした。飼葉桶(かいばおけ)に寝ているみどりごがそのしるします。全世界の救い主が最も低いところに来られたのです。続いて天の軍勢と御使いが現れ、「栄光が神に、平和がみこころにかなう人たちに」と歌います(14 節)。神の救いは、世の価値基準を壊します。地位が高い人ではなく、低く謙遜な人の所に先に臨まれました。「心の貧しい者は幸いです」(マタイ 5:3) ということばのように謙遜な人が救い主の誕生を誠に受け入れることが出来ます。

*イエス意味「ご自分の民をその罪からお救いになる」：イエス様は貧しさや病から救って下さる方ではなく、「罪から救って下さる方」です。人権運動家でも、革命家でもありません。神様と私の間をさえぎっているつみの壁を打ち壊し、取り除くために、来られた神の御子であられます。
*キリスト(Christ)の意味「メシア(ヘブル語)・クリストス(ギリシャ語) “あぶら注がれた方” 意味(キリストの身分と役割)」旧約時代に油そそぐた三つの身分①王(King)②(大)祭司長 (the high priest) ③預言者(Prophet)でした。

<②救い主イエス・キリストに対する人々の反応>

しかし、当時、無関心で、ヘロデ王のようにお生まれにならないように必死に止めようとする者たちもいました！
しかし、人類を救うために神のご計画通り、予言の通り、お生まれになられた時、多くの人々は無関心でした。 実際そのメシアがイスラエルの中にお生まれになられた時に、意外と多くの人々は関心がありませんでした。天の御使いたちの軍勢が直接現われ、メシアの降誕を直接知らせ(ルカの福音書2章10-11節)ましたが、野原の小数の羊飼いたちだけがそのメッセージを聞き、直接お生まれになつたイエスキリストの御前に行ってひれ伏し迎えられました。
ルカの福音書2章13節では「すると突然、その御使いと一緒におびただしい数の天の軍勢が現われて、神を賛美した。」 みなさん、ここであんまりにも不思議で、注目するところは多くの天の軍勢と御使いの賛美を聞いた人はただ少数の羊飼いだけでした。静かな夜に響く多くの天の軍勢の御使いが現れ、賛美声は回りにももつとも大きく響き、聞こえたはずでしょう。静かなベツレヘムの町の名か多くの天の軍勢と御使いの歌声の響きがきっとすごかったはずなのに、夜番をしていた羊飼いだけが御声を聞き、救い主がお生まれになられたところへ行って、拝見することが出来ました。
当時皇帝アウグストゥスの勅令が出され、ベツレヘムでも住民登録をするために、地元に帰つて来た多くの人々が集まつたため、ヨセフとマリアが泊まるところすら見つからないほど多くの人々が集まつたはずでしたが、残念ながら、だれ一人おびただしい数のみ使いの賛美を聞いたり、見た人は一人もいませんでした。
なぜだったのでしょうか。メシアに対する関心がなかったからでした！！
ベツレヘムの人々は、メシアのことより、人のことにもっと関心がいったのではないか。多くの人々が集まつたところでおしゃべり、楽しみ、必死にお金を儲けることに、目の前のことに夢中だったかも知れません。自分の事や世間のことの話ばかりにしか傾けてないため、いくら天で、多くの天の軍勢と御使いの歌声を響いても、神からの素晴らしい良い知らせが宣布されても、聞く事ができませんでした。

夜番をしていた羊飼いたちがみ使いとその知らせを聞いたのは、当然一方的な神の恵みであり、神の選択でしたが、彼らが他の人々より信仰が深かったり、聖書の知識が多くあったとも言えません。しかし、少なくとも、天を見上げられる心、そして、御使いの知らせを聞いた時にお言葉通り信じて、すぐ行動に移し、従つた純粋な信仰を持っていたのに間違いありません。なぜ羊飼いたちだけは、各自分の故郷に行かずに、徹夜しながらも、羊の群れを見守つていたのか、多くの神学者たちは、それについて、イエス様の時代、夜番をしていた羊飼いという身分は、もっとも貧しく低い自分で、自分の羊を飼つていた人たちではなく、ご主人の羊の群れを代わりに飼い、守る仕事をしながら、生計をして

いた人たちだと言われます。そんな羊飼いたちが、救い主がお生まれになられたとみ使いの知らせを聞いた時に、彼は、どう反応してましたか。主人の羊の群れを、しばらくおきつ放しにしておいても、決心し、覚悟してすぐ急いでベツレヘムのイエス様がお生まれになったところ行ったのです。み使いの良き知らせを信じて、すぐ従う信仰！自分がどんな損になるかも知れないけど、覚悟して、決心して、救い主のみもとに近づこうとしていた人々でした！

その結果、この世に来られた、救い主なる神の御子イエス・キリストを初めて、拝見し、礼拝をささげられる主人公たちとなつたのです！

ベツレヘムの町の人たちだけではなく、エルサレムの人たちも、イスラエルの人々も、救い主を日々心から信じて待ち望む信仰があったならば、いくらでも、ずっと預言されて来た救い主が実際お生まれになられたことを知り拝見することも可能でした！なぜでしょうか。

神は、数千年ずっとキリストの降誕を具体的に示し、だれでも見られるように、不思議な大きな星を現し、メシアの御誕を人々に示してくださったのですが、東方の博士たちだけが、ベツレヘムまで来て直接お生まれになられた神の御子イエスキリストを迎えることができたのです！

多くのイスラエルの民たちは神と神の御言葉を信じると言いながら、定義的に聖殿で神に礼拝を捧げていた人々でした。旧約の聖書を通してずっと救い主が来られる預言を聞き、期待感を持ちながらも、実際メシアが自分達の時代に、それとも自分たちが住んでいるところに、まさか来られるなんて思ってもなかつたようです。

実際彼らの心では無関心でした！

そして、さらに当時ヘロデ王はお生まれになったメシアイエス・キリストに対してさらに酷い反応をしました。

マタイの福音書2章16節を見ると「ヘロデは、博士たちに欺かれたことが分かると激しく怒った。そして人を遣わし、博士たちから詳しく聞いていた時期に基づいて、ベツレヘムとその周辺一帯(いったい)の二歳以下の男の子をみな殺させた。」

ヘロデ王はこの地に来られたイエス様を迎える用とするより、自分の立場、自分の既得権、自分の利益、自分の名誉と権力がお生まれになるメシアによって奪われるのではないかと恐れ、不安になり、みどり子であつても関係なく、人を殺す剣をだし、殺すことにためらいませんでした。

一瞬、ベツレヘムの町は血のなまくさいと嘆きの泣き声が絶えない悲惨な町に変わりました。ヘロデがこのような残忍な行動をとったのは生まれた子供たちの中でイエスキリストがいるのではないかと思ったからです。ヘロデ王がこれほど悪くふるまつた本当の理由は自分の王位が脅かされると思ったからです。ヘロデ王は聖書に記録されたお生まれになったキリストを政治的な王として勘違いしたのです。これはヘロデが肉体的な欲望にとらわれ、自分はイエス為損害を受けたくないという現わした行いでした。結果彼はあんな残酷で無慈悲な罪を犯してしまつたのです。

後ヘロデ王は自分の息子さえも自分の王座を狙っているのではないか疑つてしまい自分の息子まで殺してしまつた精神的な病人でした。歴史家であるヨセフスによると、このヘロデ王は自分の息子を殺して七日目に腸がくさつた病にかかってしまい死んだと証言しています。自分だけのために生きる人の結末はまさしく哀れで、悲惨です。

今日も、クリスマスを迎えるながらも、相変わらず戦争や内戦、紛争、迫害や妨げが今も全世界の中で続いている事をご存知でしょうか。今日も世界中でイエスキリストを信じられないように、知らないように、救い主に一切触れず、近づけないようにどれほど激しい迫害があるのか分かりません。

アメリカのクリスチャン雑誌の中「クリスチャン・ヒストリ (Christian History)」によると、「イエスキリストが来られてから、キリストを信じるクリスチャンの中で殉教者数が約7千万人まで至る」と、そして、クリスチャン・ポスト紙によると、過去10年間世界でキリストを信じる信仰の理由で、90万人が殉教されて来ているという報告があります。OPEN WINDOWという宣教団体によると、今も、キリスト教を信じるクリスチャンたちを迫害している国が73国、キリスト教を敵対する国は151国、迫害を経験したことがあるクリスチャンは8億人、その中2億4千5百万人は今もとても激しい迫害の中にいるといわれています。今も世界中、ウクライナなどの戦争が早く終わり、クリスチャンやキリスト教会に襲つて来る敵対や妨げ、迫害の中にいる兄弟姉妹たちのために祈るべきではありませんか。

そして、今日我らがキリストの体なる教会に自由に入り、このように礼拝を捧げられ、自由に祈れる、自由に自分の聖書を持てる、読める、賛美出来るこの環境だけでもわれらはどれほど感謝すべきでしょうか。実はこれは当たり前なことではなく、昔日本にも激しい迫害と殉教の中でも、妥協せず、殉教の血を流したり、信仰を守り抜いて来た信仰の先輩たちのおかげでもあることに感謝しなければなりません。「ローマ12章14-15節：あなたがたを迫害するものを祝福しなさい。祝福すべきであって、のろってはいけません。喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。」聖書に「第二モテ3章12節：キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。」

しかし、一つここで覚えるべきなのは、あんなに絶対的な権力を持って、必死にサタンがヘロデ王を利用して、救い主イエスキリストがお生まれならないようにとめようとしても、救い主は神の計画通り、神の御業の中でお生まれになられ、人を恐れさせ、妨げ、キリストに近づけないようしても、東方の博士らも、羊飼いたちも、敬虔な人々は御前にへりくだつて迎え拝していたのです。ですから、今もみなさんにいくら戦いが、妨げがあつても、全て神の御心通りなされ、キリストが勝利して下さいますから、我らもイエスキリストの御名による信仰によって、どんなに苦しい環境や

問題も貫け、乗り切って勝利をおさめることがいくらでも出来るのです。キリストの御誕は神の愛と勝利を確かに確定させ、全ての人類にその良い知らせを伝え続けましょう！

<③ 誰でも、ただ自身の心の扉を開いてイエスキリストを迎え入れ、信じるだけで神の救いを頂けます！>

聖書では明確にイエスキリストを自身の罪から赦し、解放させ、救うことが出来るお方として信じることによらなければ、他神の救いを得ることが出来ないことを聖書は明らかに強調しつつ、教えて下さっています。

ヨハネの福音書3章16節「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

ヨハネの福音書3章18節「御子を信じる者はさばかれない。信じない者はすでにさばかれている。神のひとり子の御名を信じなかつたからである。」

ヨハネの福音書5章24節「まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきにあうことがなく、死からいのちに移っています。」

ヨハネの福音書7章38節「わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになります。」

ローマ人への手紙1章16節「私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシア人にも、信じるすべての人に救いをもたらす神の力です。」

ローマ人への手紙3章22節「すなわち、イエス・キリストを信じる信仰によって、信じるすべての人に与えられる神の義です。そこに差別もありません。」

ヨハネの手紙第一5章13節「神の御子の名を信じているあなたがたに、これらのこととを書いたのは、永遠のいのちを持つていることを、あなたがたに分からせるためです。」

なぜ信じる事が大切でしょうか。一の頭と知識の次元では聖書の初めのページである創世記1章1節すら、人の頭では到底理解出来ないものだからです。不思議なのは、神の御言葉として信仰をもって聖書を読むと、聖書の66冊全てが理解出来るなるものが神の御言葉、聖書であります。

愛するクリスチャンプレイスチャーチの信仰の家族のみなさん！ですから、信仰は頭でとどまつては決していけません。頭の信仰になってしまふと、むしろ、イエス様の時代の宗教指導者たちのように、ますます高ぶりになりやすく、心が頑なになりかちで、人をさばく者になつてしまふことを教訓として忘れてはいけません！

信仰は心から受け止めることであり、手足と行いにより、生き方とならなければなりません。

<④ 信じる全ての人々にインマヌエルの神となって下さるイエス・キリスト>

神様はイエス様のお生まれの前 B.C. 759 年にすでにイザヤ預言者をとおして予言されました。

イザヤ7章14節「それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を「インマヌエル」と名づける。」そしてマタイの福音書1章22-23節の「このすべての出来事は、主が預言者を通して言わされたことが成就するためであった。「見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。(訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。)」と引用されています。

わたしたちのうちに来られた神の御子の別の名は、「インマヌエル」です。

救い主イエス・キリストは、約 2 千 25 年前に遠い異国之地で生きた、決して自分たちとは関係のない方ではありません。永遠の命を与えるために私たちのもとに来られた救い主神の御子です。全能であり、宇宙よりも偉大なイエスキリストはご自分を信じる者と永遠に共にいてくださいます。その恵みの中に留まる者は、心を尽くしてイエスを愛し、イエスがこの世に来られたことこそ最大の祝福なのです。

マタイの福音書は、インマヌエルから始まり、インマヌエルで終わります (23 節・28:20 「見よ。わたしは世の終わりまであなたがたといつもともにいる。」) 私たちとともにいるためにこの地に来られた神の御子は、世の終わりまで私たちとともにいると約束してくださいました。わたしたちの人生において最大の祝福は、「神がともにおられる」ことではないでしょうか。

有名な哲学者ソクラテスは40年間、プラトンは50年間、アリストテレスも40年間、自分たちの弟子たちを教えました。しかし、イエス様はたった3年間、弟子たちに教えました。なのに、イエス様の3年間の働きは130年間の古代の偉大な哲学者たちの教えとは比べられないほど人類にその影響は大きかったです。イエス様は一枚の絵も描いたことがありません。しかし、ラバエルとミケランジェロの優秀な絵はイエスキリストから靈感を受けて描かれました。イエス様はたった一行の詩も書かれませんでした。しかし、ダンテとミルトン、そして世界の偉大な詩人たちの数百編の詩をイエス様によって靈感を受け書かれました。イエス様は海外に旅行されたこともありません。全世界は今日その

方から大きな影響を受けています。イエス様は一冊の本も書いてませんでしたが、全世界図書館の半分以上の本が直接的に、間接的にその方と関連されています。イエス様はたった一曲も作曲されませんでしたが、ハイドン、バッハ、ヘンデル、ベートーヴェン、そしてメンデルスゾーンはそれぞれイエス様を賛美するために賛美歌、交響曲（こうきょうきょく）、オラトリオなどで才能をみせてくれました。くすしい御名イエス・キリスト！力の名前、イエスキリストが我々に与えられ、共におられる日がまさにクリスマスなのです。

みなさん！ひとりの子が我々に与えられ、今もともにおられます！そのみどりごは神様が私たちのために与えられた神のひとり子です。神の御子我らの救い主なるイエスキリストが今も我々に語ってくださっています。

「疲れた人、重荷を負っている人はみなわたしに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげよう。」

我々のすべての重荷をメシアとして来られたイエス・キリストにおろしましょう。インマヌエルとして来られたイエス様は私たちと永遠にともにおられます。愛する信仰の家族みなさん！我々と永遠にともにおられる方がいます。それはイエス・キリストです。我々がこのクリスマスを喜び、お祝いする理由がここにあるのです。私たちがこの世を離れる時までそして永遠に私とともに/oられるそのイエス様が来られた日がクリスマスなのです。インマヌエルの主！我々にいのちがあるかぎり、いや、永遠にともにおられる神！ですから、クリスマスには希望があります。愛するみなさん！この一年どんなにつらいことがあっても、このクリスマスからやり直せることができます！

だれでもイエス様を信じれば救われます！日々の歩みの中でわたしとともに/oられる神様を経験することが今からでも出来ます。これがクリスマスに人類与えられた「インマヌエル」の祝福だと言えるでしょう。神様はいつもともにいると約束してくださいましたが、神様がみなさんと共に/oられることを実際最近経験して来ているでしょうか。もしともにおられないと思ったことがあるなら、それはいつですか。2025年今年最後の主日を何とクリスマスを迎なながら、私たちを罪から救うためにこの地に来られ、私たちと永遠にともにいると約束して下さったイエスキリストの尊い御名を賛美し、感謝をささげましょう。とこしえまでともにいると約束してくださいましたインマヌエルの祝福を覚え、今日からもう一度新たに日々キリストにあって歩み、キリストとともに歩みながら、御国の希望を抱いて生きる、愛するクリスチャンプレイスチャーチの全神の家族となりますように主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます！アーメン！